

リレーエッセイ

ハードルを越えて

14



ばば すえよし
馬場 末義さん

●馬場 末義さん
株式会社中礼義肢製作所 始良工場 勤務。第30回全国障害者技能競技大会の競技職種「義肢」で銅賞受賞。昭和26年生まれ、57歳。始良町在住。

私は2008年10月24日から26日まで千葉県幕張メッセで開催された第30回全国障害者技能競技大会(2008なの花アビリンピックinちば)の競技職種「義肢」に参加しました。大会参加は第29回香川大会に続き今回が2回目でした。前回は緊張のあまり、いたずらに競技時間が経過するだけで、自身の技術不足を痛感しました。今回は技術不足を補うために口頃の仕事に精進し、自分なりに自信も付けて大会に臨み、銅賞を受賞することができました。

技能競技大会には20職種及びデモンストレーション3種目に全国から252名の選手が参加しました。選手が口頃培った職業技能を披露し、競技に真剣に挑む姿は見る人々に感動を与えたと思います。この障害者技能競技大会をもっと多くの経営者の方々に見て頂き、一人でも多くの障害者の就職に結び付けばと思いました。

私は26歳の時に交通事故で左大腿を切断し義足生活になりました。勤めていた証券会社も自主廃業となり失業しました。就職活動をして、なかなか就職先が見つかりませんでした。障害者職業能力開発校の存在を知り、若い時から手先の器用さには自信があったので、鹿児島障害者職業能力開発校の義肢科に入学しました。

同校では恩師にも恵まれ、就職活動にご尽力頂いて現在の勤務先、株式会社中礼義肢製作所に就職することができました。私を採用して頂きました会社、社長及び役員の方々に感謝いたしております。勤務するにあたり、一日でも早く会社に貢献できるよう精進することが、最も会社に恩返しすることと思ひ、今日まで頑張ってきたと思ひます。

普段私が自分に言い聞かせていることは、自分自身が障害者であることで、甘えを持たないということ。甘えを持つと、全てが否定的になり、責任転嫁をして、その先には何一つ進展しないからです。障害者同上、あるいは障害者と健常者、お互いに助け合いながら、前向きに社会参加をしていけたらと思ひます。



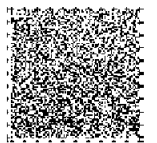
銅賞の賞状とメダル

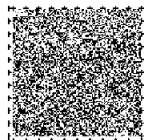


競技中の馬場さん。



閉会式当日、県選手団6名、同行職員と一緒に記念撮影(後列左から二人目が馬場さん)





鹿児島県からの おしらせ



心の輪を広げる障害者理解促進事業



たくさんのご応募
ありがとうございました。

～心の輪を広げる体験作文～

～障害者週間のポスター～

障害の有無にかかわらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会を目指し、障害者に対する理解促進を図るため「心の輪を広げる体験作文」と「障害者週間のポスター」を、内閣府及び都道府県及び指定都市の共催で、毎年度公募しています。

[問い合わせ先] 鹿児島県 保健福祉部 障害福祉課
TEL 099-286-2111 (内線2746)

平成20年度 公募結果

(※鹿児島県が最優秀賞者を決定し、内閣府へ推薦した結果)

～障害者週間のポスター～

内閣府佳作／小学生部門
鹿児島県最優秀賞／小学生部門



鹿屋市立上小原小学校3年
みぞくち しんせい
溝口 心星さん

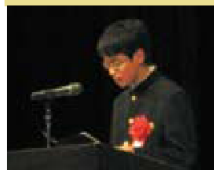
内閣府特命担当大臣賞(優秀賞)／中学生部門
鹿児島県最優秀賞／中学生部門



大口明光学園中学校3年
たにもと ちさ
谷本 知砂さん

～心の輪を広げる体験作文～

内閣総理大臣賞(最優秀賞)／中学生部門
鹿児島県最優秀賞／中学生部門



作品名「たくさんのお会い」
鹿児島市立星峯中学校1年
ばばぞの れお
馬場園 怜央さん

鹿児島県最優秀賞／小学生部門

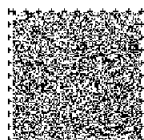


作品名「目が見えない人
とのたつきゅう」
南九州市立知覧小学校2年
もり ゆうだい
森 優大さん

鹿児島県最優秀賞／高校生・一般部門



作品名「私の考える障害」
加治木女子高等学校1年
もりお のり
森尾 乃梨さん



※受賞者の写真は「平成20年度 鹿児島県障害者保健福祉大会」での作文朗読時のものです。

KAGOSHIMA

鹿児島島のいろいろな建物や施設、
あるいは人の心の中にあるバリアが取りはらわれています。
一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。

バリアフリー最前線

Barrier Free-Saizensen

24名の盲導犬使用者が宿泊

鹿児島 サンロイヤル ホテル

(鹿児島市)

住所 〒890-8581
鹿児島市与次郎1-8-10
TEL 099-253-2020(代表)
FAX 099-255-0186
<http://www.sunroyal.co.jp/>



鹿児島サンロイヤルホテル

検索



アイメイト(盲導犬)は、しっかり訓練がされているので、集団でもおとなしく整然と行動します。外では仕事なので、話しかけるときは、犬ではなく使用者に声をかけてください。

●盲導犬の育成と視覚障害者への歩行指導を行う財団法人アイメイト協会(東京都)の同窓会が鹿児島で開かれ、全国から24組が参加した。同窓会行事は、これまで関東中心に開催されてきたが、今回初めて九州で開催。協会の卒業生でつくるアイメイト鹿児島が旅行プランを企画した。宿泊と懇親会の会場は、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテル。ホテル側でも24名の盲導犬使用者の受け入れは初めての体験。アイメイト鹿児島と事前に

協議を重ね、要望や注意点を伝えてもらい、ホテルの外側に盲導犬用の排せつ場を提供するなどして24組を迎える準備をした。ホテル営業本部長の寺田秀人さんによれば「懇親会で、一人ずつ盲導犬と一緒に自己紹介されて、みな楽しそうに話されていて、その様子を見聞きしているだけで、お受けしてよかったと思いました。今回、盲導犬は身体の一部であるということを変更して勉強させられたと思うています。今後、障害のある方への対応を含めホテル全体でバリアフリーの意識を高めていきたいですね。お客さまの満足はホテルの願い。鹿児島サンロイヤルホテルでは、お体の不自由なお客様に、安心してご利用いただけるよう、事前にお電話などで、お客様の状況・要望等をホテルに連絡・相談していただけるようお願いして、万全のおもてなしを心がけています。」●

ありば

VOL.17 平成21年3月31日発行

[感想をお寄せください]

鹿児島県保健福祉部障害福祉課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

TEL.099-286-2111(内線2746) FAX.099-286-5558

[E-mail] shougai@pref.kagoshima.lg.jp

[URL] <http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/syogai-syakai/index.html>

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後には上記障害福祉課へご連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版及び録音図書を鹿児島県視覚障害者情報センター(鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアかごしま3F TEL.099-220-5896)に備え付けてあります。

「SPコード」について

ページの隅に置かれている、四角い黒い点々を「SPコード」(音声コード)といいます。この18ミリ四方の一つのSPコードのなかに、日本語で約800字のテキスト情報を収納することができ、専用の読み取り機でSPコードを読み込むと、そのページの空を音声で読み上げることができます。なお、視覚に障害のある方にもSPコードの位置が分かるように、ページの縁に切り込みを入れています。

